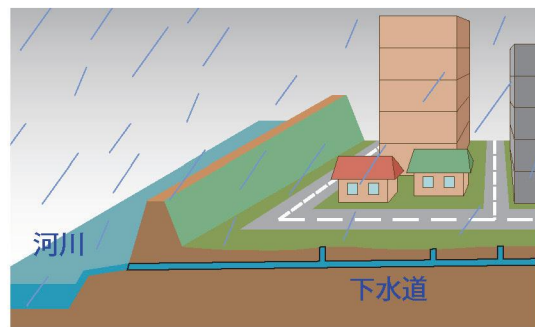


# しんすい 浸水ひなん地図の活用

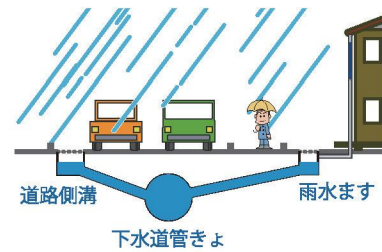
本市では、市街地の河川及び下水道の整備を順次進めています。近年、局地的な大雨などの整備水準を超える雨が增多しています。本市においても平成15、16年及び26年にこのような大雨が降り、床上、床下浸水などの大きな被害が発生しました。河川や下水道の施設を整備するだけでは、被害を抑えることが難しくなっています。

こうしたことから、地域の皆さんに、浸水しやすい区域や浸水の深さを把握していただき、日頃から大雨への備えに活用していただく目的で「浸水ひなん地図」を作成しています。

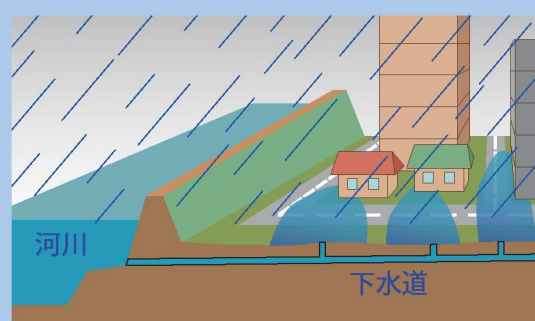
## しんすい 浸水ひなん地図の適用範囲



宅地に降った雨は雨水ますへ、道路に降った雨は道路側溝に集まり、下水道の管きよなどを通して河川に排水されます。



大雨が降ると下水道などで全ての雨水を排水できなくなり、内水による浸水が起こります。



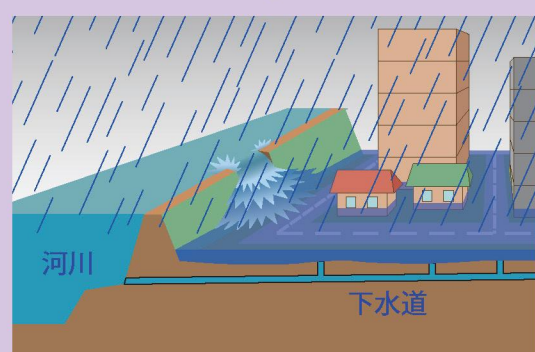
内水氾濫とは、雨の量が下水道などの排水能力を超えたときや、河川等の排水先の水位が高くなったときに雨水を排水できなくなり、浸水することです。



**内水氾濫の発生**  
浸水ひなん地図の適用範囲です。

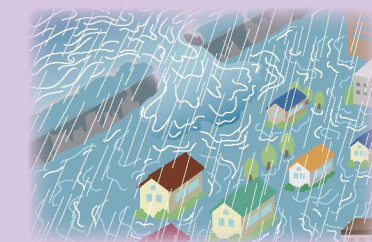
P.3~20の地図をご覧ください。

もっと雨が激しくなると、洪水(外水氾濫)の危険が高まります。



洪水(外水氾濫)とは、大雨によって河川等の水位が上昇し、堤防を越えて水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊したりすることです。

家屋の倒壊や流出など、大規模な被害を引き起こします。



**洪水(外水氾濫)の発生**  
洪水ひなん地図の適用範囲です。

P.21,22を参照し、ホームページでご確認ください。

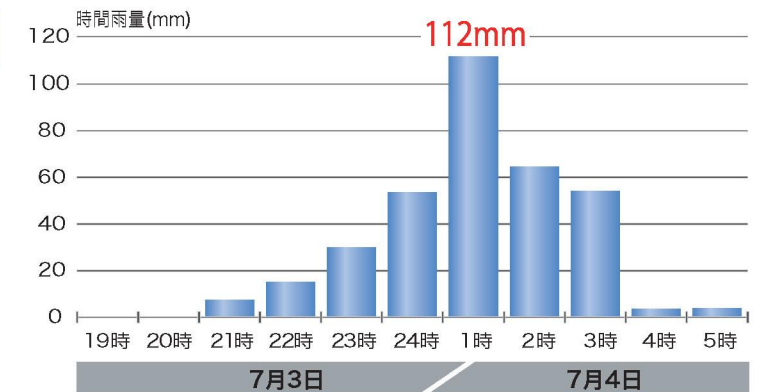
## しんすい 浸水ひなん地図の条件と注意点

- ①市街化区域を対象にしています。
- ②河川や下水道の施設等の整備状況は、令和3年3月末時点の状況を反映しています。
- ③浸水発生の予測は、主要な水路や管きよ(おおむね幅600mm以上)を対象としています。小さな水路や管きよ、道路側溝などは考慮していないため、雨の降り方によっては、実際の浸水区域が広くなったり、浸水が深くなる場合もあります。
- ④浸水状況は時間とともに移り変わります。雨の降り方によっては、浸水発生が降雨直後ではなく遅れて発生する場合や、雨が小降りになっても広範囲に浸水が残る場合もあります。強い雨が降った時は、雨が止んだ後も降雨状況等の情報収集を行いつつ、浸水発生状況の時間的な移り変わりにも十分に注意してください。

## しんすい 浸水ひなん地図の想定降雨

浸水ひなん地図の想定降雨は、今まで静岡地方気象台で観測したなかで1番大きな降雨の平成15年7月3日~4日の時間雨量112mmです。

当時は、洪水(外水氾濫)は発生していませんが、市内各地で内水氾濫が発生しました。



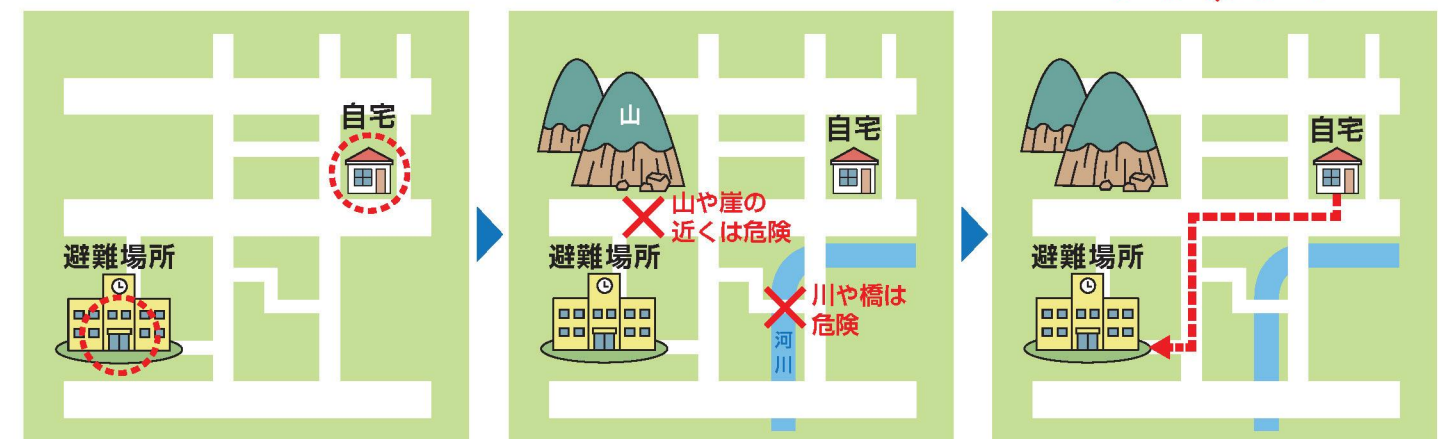
## しんすい 浸水ひなん地図の更新

今回の「浸水ひなん地図 更新版」では、最新の土地利用状況や浸水対策で整備した下水道管きよの情報を反映し、想定される浸水の区域と深さを見直しています。

今後も、浸水対策の整備が進んだ場合や降雨傾向を踏まえて、必要に応じて更新(見直し)を検討していきます。

## しんすい 浸水ひなん地図の活用

まずは自宅周辺をチェック!



自宅や職場、避難場所などに印をつけましょう。  
周辺の浸水箇所や深さを確認しましょう。

周辺の危険箇所を実際に歩いて確認しましょう。

安全な避難ができるような経路を家族と確認しましょう。